

ウラジロエノキ (葉、果実)

[木本] 《嗜好》



葉は互生して同じ面を向く。



葉の基部は心形で裏は銀白色。



果実は黒紫色に熟す。

区別のポイント

樹皮は灰白色で滑らか。葉の基部には顕著な3脈がある。表面は短毛が散生してざらつく。裏面は銀白色。

形態 常緑高木。高さ 10m。台風などで落葉するがすぐに芽吹く。

分布 南西諸島 (屋久島・種子島以南)

名前の由来 葉はエノキに似て、裏面は絹毛が密生し銀白色であるから。

葉 〈全体〉長さ 5 ~ 12 cm、幅 2 ~ 6 cm の卵状長楕円形。

〈付き方〉互生。

〈葉柄〉8 ~ 10 mm。

〈基部〉心形で左右不対称。

〈葉先〉長く鋭く尖る。

〈縁〉細かく整った鋸歯。

備考 屋久島が北限。パイオニアプランツ。南西諸島では、餌木として使用。

出典 5